

“Heart to Heart”

第16巻 第1号 (No.47)

発行日 2021年7月1日

心から心へ わちあう あたたかさ

武蔵野東教育センター所長
計野 浩一郎

ICT化が進んでも教育はまず基礎から

この新学期より、デジタル教科書の使用が拡大されています。これまでの使用時間は「授業時数の2分の1未満」という制限がありました。4月からそれが撤廃されました。また、政府は小中学校におけるパソコン端末の一人1台の配布を目指す「GIGAスクール構想」を推進してきました。昨年、新型コロナウイルスによる臨時休校が長引く中、文部科学省は整備を前倒しして、97.6%の自治体が児童生徒の手元に端末を行き渡らせました。このように行政はICT(情報通信技術)の授業活用を急速に進めています。その背景にはAI(人工知能)の活用に関し諸外国に後れを取っていることがあるでしょう。しかし、急速な推進が、様々なところにひずみや負担を生み出しているのも事実です。

一方、家庭においては、子どもたちのコミュニケーションツールの一つになっているゲームによって、このコロナ禍で多くの時間を取られ本来やるべきことができなくなったり、生活リズムが崩れたりすることが起こっているようです。次のような取り組みをすると適正な使用になるのではないかと思います。生活の中で、手伝いや遊びを含め、「〇〇分間」「〇時まで」などルールを決めておく。ルールは、丁寧に話し合い、お子さんが納得の上で決める。ゲーム機の見守り機能などを活用して制限をかける。ゲーム機を子ども部屋に持ち込ませない。食事や習い事などの次の時刻が迫っている際には、10分前など少し早めに声をかけ切りかえを促す。終わりのタイミングを意識しつつ遊び、〇分後までには自分で区切りをつける姿勢を引き出す。ま

た、「どんなゲームに夢中になっているのか」などを確認する意味でも、一度ご自身でも試してみるのもよいと思います。

どんなにICT化が進んでも教育はまずは基礎から、そして子どもたち一人ひとりの適正にあった教育をしなくては効果が上がりません。そのための地道な基礎の積み上げを強化するのが一番大切ではないかと思えます。個人の状況に合わせて、多様な学びを達成していくことこそが本来のインクルーシブ教育の目指すところだと考えます。何を学習してどういう力を身につけたのかを社会が評価していくことが、これから学校教育、家庭教育に求められているのだと思います。当センターでは情報端末を特性に応じて適正に使用しつつ、基礎をしっかりと見つけ、個人の状況に合わせて多様な学びの機会をご家庭と協働して提供していきたいと思えます。

本年度から夏休み中もセンターでの教育を続けていきます。この機会を通して規則正しい生活を整えつつ、重点指導である「聞く、話す、読む、書く」の学びを見直す機会とするとともに、普段できない経験を積み上げていってください。

夏休み明けの9月には心の調子を崩しやすく、登校渋りや感情の起伏が激しくなることがあります。休み明けに向けて規則正しい生活を親子とも心がける。朝一緒に散歩をするなど適度に体を動かす時間をとる。お子さんが楽しめる予定を入れて気持ちの切りかえをはかる。少し先に目を向け、休み明けに楽しみな予定を組んでおく。休み明けはあまり無理をさせず、少しずつリズムを取り戻すようにしてください。

目次:

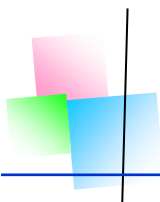
ICT化が進んでも
教育はまず基礎から 1

療育プログラムのようす 2/3

コラム:思春期から青年期へ
自己理解を深める 4

ご案内 4





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラムの様子】

音楽教室 2年間ギターに取り組んできた子どもたちは基本的なコードやストロークをマスターしつつあり、今年からアルペジオにチャレンジしている子どももいます。アルペジオは弦を一本一本弾く奏法なので両手の巧緻性が求められますが、自ら「演奏してみたい！」と選んでくれた昭和の名曲「川の流れるように」の一部でその弾き方ができるように特訓中です。(平瀬戸)



アルペジオに挑戦！

幼児絵画造形教室 セロテープの練習の第一段階として、牛乳パックに色のついたビニールテープでプラスチックカップを貼り合わせたカメラを作りました。色がついていると、どこどこを繋げればよいかははっきりわかるので、ずれてしまった時も貼り直しができます。出来上がるとセンターの中を探検しながら「はい！チーズ！」と各カメラマンに変身！写真撮影を楽しみました。(本田)



「はい、チーズ！」

リズム教室 ラバーリングを使い、太鼓に合わせて両足を揃えたグージャンプやケンケンパーの練習をしました。最初は、自分のテンポで跳んでいた子ども達ですが、グージャンプは手拍子、パーは両手を左右に広げるなど手の動作を加えることで、1つ1つの動きがダイナミックになり、リズムをより意識しやすくなりました。最近では、ペアの友だちとタイミングを合わせて行えるようになりました。(高橋)



友だちと合わせて

体育教室 一つ目は左右の手を交互に使い、タイヤを転がしながら歩く、二つ目は身体に力を込めてタイヤをお腹の高さまで持ち上げる、三つ目は、指先を上手に使い、タイヤを立てた状態で回転させる、最後に、タイヤの中をくぐる活動です。体育教室ではこれらの活動を通し楽しみながら、左右の協応運動、指先や身体全体に力を入れる感覚、ボディーイメージの向上を目指しています。(鈴木)



さあ 回して 回して！

コンピュータ教室 ペイントソフトの使い方の学習を始めています。初回は、ブラシと塗りつぶしを使って紫陽花を描きました。マウスを使って線を描くことは意外と難しく、自分の思った通りに描けるまで何度もやり直す様子も見られました。マウス操作の練習は、WordやExcelでのボタン選択や範囲指定の操作にもつながるので、時間をかけて取り組んでいきます。(臼井)



マウスを上手に使って…

ダンス教室 日頃から筋力トレーニングに取り組んでいます。これは、美しい姿勢を維持するため、ダンスを上手に踊るためにも必要不可欠です。「お腹の上に好きな食べ物を乗せてそれを落とさないように…」などとイメージしながら行うことで、正しい体勢を維持できるようになってきました。今後もより確実に、そしてより楽しく鍛えられるようトレーニング方法を考えていきます。(益田)



腹筋を頑張っています！

言語プログラム 絵カードを使って動きの様子を表す言葉を覚えています。絵本や教科書に出てくる話にも、これらの言葉がたくさん使われています。まずは、「ジュースをゴクゴク飲む」のような、日常生活でよく使われるものから覚えていくと覚えやすいようです。少しずつ表現できる言葉を増やして、楽しく豊かな会話につなげていきたいです。(服部)



「ゴクゴク」はどれかな？

SST教室 5～6年生のクラスでは、毎回「友だちにインタビュー」という活動を行っています。あらかじめ決められた質問をペアの友だちにして、答えてもらいます。この活動は、相手の顔を見て会話をしたり、あいづちを打ったりすることを練習する目的で行っています。最近では、決められた質問以外にも、笑顔でフリートークをする様子が見られるようになってきました。(臼井)



友だちにインタビュー



【スクールプログラム・ラーニングプログラム】

幼児 6月は梅雨にちなんだ製作を楽しみました。同じ「かたつむり」でも、はさみ、のり、クレヨンを使い、年齢によって全く違う素敵な作品が完成しました。年長児は、絵描き歌で色々な大きさのかたつむりを描いて「大きい・小さい」、かたつむりと犬が競争するスライドを見て「速い・遅い」など、製作と学習の内容をリンクさせて、理解を深められるよう工夫しています。(益田)



いろいろなかたつむり

1年生 国語で助詞「くつつきのは・へ・を」の学習を行っています。同じ音でも助詞になると「わたしわ」ではなく「わたしは」という表記になることを音読や黒板教材、プリントなどで学んでいます。この日は第一回目の授業で『わには』という短い文章を音読しました。リズムよく音読することで、助詞の変化を楽しんで学習できるよう工夫していきます。(諸橋)

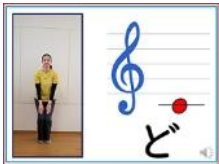


「わには かわから かおをだし…」

2年生 図工の時間に絵の具を使って作品作りをしています。筆に含ませる水分や絵の具の量の調整で色の濃淡が変わることや、クレヨンで描いた模様や文字を絵の具がはじく様子を楽しんでいます。回数を重ねながら筆の扱いや水や絵の具の量を意識しながら取り組む様子が見られるようになってきています。(壹岐)

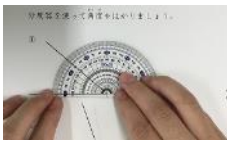


かたつむりの模様が出てきた！



「手を膝に置いてド！」のポーズ

3年生 音楽では、曲に合わせてハンドサインの練習をしています。「ひざに両手を置いてド」「手の胸で交差してミ」「前ならえをして、ファ」など一つひとつの音の音階のポーズの確認をしたあと、「きらきらぼし」や「ゆかいな牧場」の曲に合わせて練習をしました。上手にできたので今は「茶摘み」の練習をしています。音の高さを確認し、歌の音程やメロディに意識付けできたらと思います。(宮下)



しっかり合わせて！

4年生 算数の授業で分度器を使った学習を行っています。角度の読み取りや指定された角度の角の作図など、様々な形で分度器の扱いを練習中です。分度器の合わせ方、目盛りを読み始める方向といった細かいポイントがあって難しい単元ですが、みんな根気強く練習に取り組んでおり、着実に上達しています。(柳澤)



目標(天井)まであと少し！

5年生 体育でボルダリングをしています。どこまで登るか目標を定め、掴みやすい、足を置きやすいホールドを見極めながら、真剣に取り組んでいます。最初は苦戦していた子どもたちも繰り返し練習したことで着実に上の方まで登れるようになってきています。壁を登る動作は、手や腕でなく、足腰や全身のインナーマッスルも使うのでよいトレーニングとなっています。(宮川)

6年生 国語・算数・体育のほかにコンピュータの学習を行っています。タイピングソフトを使いローマ字入力の基礎を練習しながら、マウスの取り扱い方なども確認しています。ローマ字を覚えてきた子どもたちは、ひらがなで表示された単語を10問、3分間で入力するゲームをクリアすることができるようになってきています。(藤本)



タイピングゲーム

中学生 体育のミニトランポリンでは、直立姿勢でのジャンプのほか、片足のジャンプや歩行、左右へのステップ、腿上げなどの運動を行っています。また、これらを組み合わせるエアロビクスにも取り組んでおり、それぞれ楽しく励んでいます。楽曲のテンポを意識しながら繰り返し練習することで、リズム感覚と体力の向上に繋がっていきたいです。(村上)



いろいろな動きを覚えよう

ラーニングプログラム 一人ひとりの力に合わせて課題に取り組んでいます。プリント学習はもちろんのこと、カードや具体物を使って理解を進めることもあります。また、幼児のお子さんには、はさみやクレヨンなどの練習もすることもあります。一人ひとりの「できた！」「わかった！」の気持ちが育つように、これからも取り組んでいきたいと思っています。(宮下)



具体物教材



思春期から青年期へ 自己理解を深める

鎌倉ゆみ子 (前武蔵野千川福祉会理事長)

武蔵野東高等専修学校卒業式には幾度か参列いたしました。その都度、真に清々しい感動を呼び起こされました。卒業証書を手にも、壇上で、卒業生ひとりひとりが「自分」を語るのです。高校生活の始まりのころの自分のこと、様々な体験をおして自分自身が変わってきたこと。今卒業のときを迎え、改めて自分の未熟さを見つめ、また葛藤を乗り越えてきたことには自分なりの評価を。

ひとりとして同じ言葉はなく、主体的に自発的に、時に涙とともに語られておりました。

壇上の担任の先生からの率直な暖かさに満ちたメッセージも、「かけがえのないひとり」を見守り、あるいは叱咤し、あるいは励まされてこられたのだ・・・



と思わされる「語り」でありました。

思春期の訪れは個別では

あれ、心身の変化は誰よりも本人が驚くほどの急激なものです。中学生頃からはしばしば混乱に陥り、葛藤を抱え、自尊感情をも傷つけてしまう事例も教師として数多く経験してまいりました。

自分ってなんだろう、この先どうなるのだろう、そういった彼らの不安感に対峙していく際、なによりも大切なものは「受けとめる環境」そのものです。

環境とは、親よりは友達、受けとめてくれる先輩たち、大人たち、先生たち。成長と発達に即して卒業後の生活を見える形にしていく教育活動。

この時期の青年たちの不確実性を尊重し、ひとりひとりの内部に作られていく人間関係を通じて養われる思考・社会性。そこに支援者は、本人とともに、目をむけ気づかせていくことが大事と考えてきました。

進路指導担当教員としての現役時代、卒業後の生活は、「みんな

同じ・働くこと・仕事をする」とまずは共通に抑え、そこを基調として「本人の思い・意思・好み・得意なこと・苦手な雰囲気・苦手なひと」等配慮し、進路に関する学習や実習を組み立ててきました。

「福祉」と「企業」という枠をあらかじめ用意しても、本人がその違いを理解していくことの困難さがあります。大人の思い入れではなく、高校生活で積みあがってきた本人の姿を、保護者の方も、本人とともに確認しあって進みたいものです。武蔵野千川福祉会では、入所してから、数年の仕事を経験して企業就労した方もおります。企業就労はスムーズにいかなかったけれど、作業所に通いながら週数日、高齢者施設で働く方もおります。なによりも「本人の意思」を大事に。

支援者がみな同じ思いで、彼を、彼女を見守っていくことこそが就労支援のベストと思っておりません。

このコラムは4回シリーズでお届けしています。

保護者勉強会のご案内

教育センターのスタッフがお話しいたします。開催一週間前までにお申し込みください。

【第2回】 10月27日(水) 10時～12時

「遊び・工作を通して図形の理解を深めよう」
高橋奈都子
「伝わる言葉かけのヒント」 服部素・長田京子

【第3回】 2022年1月20日(木) 10時～12時

「子どもの特性を受け容れるプロセス
～親子、それぞれの視点から～」 柳澤健太
「教育センターの自転車指導」
鈴木裕磨・菊池敦宏

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10
電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595
Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページをご覧ください
<http://www.musashino-higashi.org>

セミナーのご案内

【第2回】 11月19日(金) 10時～12時

「発達が気になる子どもの支援
—家庭で簡易に取り組める動きづくりを中心に—」
是枝 喜代治 (東洋大学)

【第3回】 2022年2月3日(木) 10時～12時

「発達障害のあるお子さんの理解と支援」
浅田 晃佑 (東洋大学)

